



数学、物理、化学、生物、情報の各種目で、世界の高校生らが知識と応用力を競う「国際科学五輪」。今年の日本勢は、種目ごとに上位約10%に与えられる金メダルが、既に過去最多の10個に達し、4個にとどまった昨年から一転して活躍が目立つ。理数離れが指摘されて久しい日本の子供たち。大躍進の秘密を探った。

科学五輪の起りは、1959年にルーマニアで初めて開かれた数学五輪。その後、種目が順次増え、参加国も全世界に広がった。今月14、21日にドイツで開かれた数学五輪。104か国・地域の代表565人の中で、中国の代表とともに2人だけ満点に輝いた副島真さん(東京・筑波大付

科学五輪 日本躍進のワケ



2009年日本代表の種目別成績

| | 金 | 銀 | 銅 | 国別順位 |
|----|---|---|---|------|
| 数学 | 5 | 0 | 1 | 2位 |
| 物理 | 2 | 1 | 2 | 11位 |
| 化学 | 2 | 1 | 1 | 未確定 |
| 生物 | 1 | 3 | 0 | 6位 |

国際生物学オリンピックで金メダルを獲得した大月亮太さん(右から2人目)日本人選手団(18日、茨城県つくば市で)金沢修撮影

属駒場高3年)は、「難問として出された問題も易しく感じられました」と大会を振り返る。他のメンバーも好成績で、代表6人のうち5人が金メダルを獲得、昨年の2人を上回った。6人の合計点で争う国別順位

も中国に次ぐ2位で、過去最高だった。数学以外の種目でも日本代表は好調。茨城県つくば市で行われた生物学五輪では、大月亮太さん(千葉県立船橋高3年)が日本初の金に輝き、国別順位も昨年

の14位から過去最高の6位に上昇した。化学五輪でも初めて金2個を獲得。物理五輪も昨年の17位から11位へと順位を上げ、8月の情報五輪の結果を待たずして、金の総数は昨年の2倍以上になっている。

文部科学省によると、大会支援の予算は各種目とも約2500万円と昨年並み。それでも躍進した理由として、同省担当者が第一に挙げるのが参加者の増加だ。国内選考には5種目で計6968人が挑み、前年より約1500人増えた。生物学五輪の地元開催もあり、大会の認知度が理数好きの高校生の間で格段に上がったことや、国内選考の結果を入試で評価する大学

が増えていることが影響している、担当者はみる。さらに今年は、筆記に加えて実験問題も出される物理、化学、生物の対策として、代表の生徒を大学の実験室に向かせて、想定される実験を行わせるなど、より実践的な準備を重ねた。また、数学では国内の2次選考を通過した約20人を対象に、初めて6泊7日の合宿を実施している。

物理五輪の国内事務局、物理チャレンジ・オリンピック日本委員会の並木雅俊副委員長(高千穂大教授)は「スポーツでは才能のある子を伸ばすのは当たり前だが、学問の世界でも、優秀な子を伸ばすことの重要性が社会に理解されるようになってきた」と好成绩の背景を語る。「根っからの理数好きはまだまだ埋もれているはず。底辺拡大も大切だが、優秀な人材の発掘も必要です」

結果を入試で評価する大学

日本の金メダル数の推移

| | |
|---------|----|
| 2003年 | 1 |
| 04年 | 3 |
| 05年 | 3 |
| 06年 | 5 |
| 07年 | 5 |
| 08年 | 4 |
| 09年(途中) | 10 |

※03、04年は数学と化学の2種目、05年は生物を加えた3種目、06年以降は5種目。09年は情報を除く4種目

未来の天才科学者が教室の片隅で専門書を開いているかもしれない。(小林健)